

# 天親の『法華論』と法華經引用文例

山口 寿 謙

## I

唱法華題目鈔(定二〇七)に、『如来の滅後、後の五百年・九百年の間に出給し竜樹菩薩・天親菩薩等、徧く如来の聖教を弘め給に、天親菩薩は先小乘説一切有部の人、俱舎論を造て阿含十二年の經の心を宣て、一向に大乘の義理も明さず。次に十地論・撰大乘論・积論等を造て四十余年の権大乘の心を宣べ、後に仏性論・法華論等を造りて粗実大乘の義を宣たり。』とある。

天親(世親)は北天竺建陀羅国の富婁沙城に生まれ姓は橋尸迦(Kausika)、名を波敷盤豆(Vasubandhu)。波羅門の出で、兄弟は二人といわれている。兄も波敷盤豆と名づけられたが後に阿僧佉(Aryasarga) 無着の別名をもちいた。

沙敷は世、盤豆は親で崇敬する神の意がある。無着、世親は、説一切有部に出家をしたが無着は小乗を捨てて大乘

に入った。この時無着と名乗ったと云われている。代表的論に、『瑜伽師地論』『莊嚴經論』『中辺論』『分別論』『顯揚聖教論』等がある。弟、世親は『俱舎論』を著わし小乗を重んじた。これに対して兄は、「華嚴」十地品、「阿毘達磨」撰大乘品を持って大乘を説いた。世親はこれを受けて大乘を誹謗した事を償う為に自からの舌を切ろうとした。無着は、舌を以って大乘を毀る、何故その舌で大乘を讀めないのか、舌を切ってしまったら衆生を救う事は出来ないかと教えた。世親は兄無着の教えに従い「唯識三論」「仏性論」「十地經論」「涅槃論」「法華論」等二十九部現存の他多数の論疏があり後世千部論師と称ばれている。

ここでとりあげる法華論は妙法蓮華經優婆塞( Saddharma-Pundarika-Sutra-Upadesa) 現在、菩提留支

(Bodiruci) 訳と勸那摩提 (Ramanati) 訳の漢訳二本があり、梵本は失なわれ、西蔵本も見つけられていない。

「真諦三藏云西方相伝説法華大教流演五天竺造優婆提舍  
積其文義五十余家仏涅槃後五百年終竜樹菩薩造法華論六  
年初堅意菩薩造積論並未此土不測旨帰云々」(法華伝卷  
一)の様に竜樹、堅意も法華經の論疏を造つたとあるが、  
印度の法華經觀をさぐるには、今の所、漢訳の妙法蓮華經  
優婆提舍に拠る事になる。

(一) 妙法蓮華經序品第一

(1) 如是我聞一時仏住王舎城耆闍崛山中与大比丘衆万二千人  
俱皆是阿羅漢諸漏已尽無復煩惱蓋諸有結心得日在善得解能  
善得慧解脫心善調伏人中大意応作者所作已弁離諸重担速  
得已利尽諸有結善得正智心解脫一切心得自在到第一彼岸

(其名目一名一皆於阿耨羅三藐三菩提) 菩薩摩訶薩八万  
人皆於阿耨多羅三藐三菩提不退轉皆得陀羅尼  
〔案說弁才大升才乘  
転不退法輪〕 供養無量百千諸仏於諸仏所  
〔植衆徳本常為種諸善根常〕  
諸仏之所称歎以大慈悲而修身心善入仏慧通達大智到於彼岸  
名稱普聞無量世界能度無数百千衆生

(二) 方便品第二

爾時世尊入甚深三昧正念不動以如実智觀從三昧安詳而起起  
已(即)告(尊者)舍利弗(言舍利弗)諸仏智慧甚深無量

其智慧門難見難覺難知難解難入如來所証一切声聞辟支仏等  
所不能知  
〔所以者何仏曾親近  
何以故舍利弗如來應正遍知已曾親近供養無量〕

千百万億無数諸仏於百千億那由他仏所尽行諸仏所修阿耨多  
羅三藐三菩提法舍利弗如來已於無量百千億那由他劫勇猛精  
進所作成就名稱普聞舍利弗如來畢竟成就希有之法舍利弗難  
解之法如來能知舍利弗難解法者諸仏如來隨宜所說意趣難解  
一切声聞辟支仏(等)所不能知何以故舍利弗諸仏如來自在  
說因成就故舍利弗如來成就種種方便種種知見種種念觀種種  
言辭舍利弗吾從成仏已來於彼彼処処廣演言教無数方便引導  
衆生於諸著処令得解脫舍利弗如來知見方便到於彼岸舍利弗  
如來知見广大深遠無障無礙力無(所)畏不共法根力菩提分禪  
定解脫三昧三摩跋提皆已具足舍利弗諸仏如來深入無際成就  
一切未曾有法舍利弗如來能種種分別巧說諸法言辭柔軟悅可  
衆心取要言之無量無辺未曾有法仏悉成就止舍利弗不須復說  
〔所以者何〕 仏所成就第一希有難解之法舍利弗唯仏与仏  
舍利弗 乃能究盡諸法実相所謂諸法如是相如是性如是体如是力  
〔說法諸仏如來能知彼法究竟実相舍利弗唯仏如來知一切  
如是作如是因如是縁如是果如是報如是本末究竟等〕  
法舍利弗唯仏如來能說一切法何等法云何法何似法何相法何  
体法何等云何似何相何体如是等一切法如來現見非現見

(三) 譬喻品第三

金色三十二 十力諸解脫 同共一法中 而不得此事  
八十種妙好 十八不共法 如是等功德 而我皆已失

右○は春日本にあり優婆提舎にない字、・は優婆提舎にあつて春日本にない字、両者の相異は右に春日本左に優婆提舎をあげて、( )は優婆提舎菩提留支記にあつて勒那摩提記にない字。

II

(1)日蓮聖人遺文の法華論にふれる部分は、次の通り。

・守護国家論 定八〇

正元元年・一二五九年

・唱法華題目鈔 定一八四

文応元年五月二八日・一二六〇年 鎌倉名越

当世念仏者無間地獄事 定三一

文永元年九月二二日・一二六四年 安房東条

法華宗内証仏法血脈 定六九一

文永十年二月十五日・一二七三年 佐渡一谷

当体義鈔 定七五七

文永十年 佐渡一谷

・三種教相 定二二二八

正嘉元年一二五七年 鎌倉

・一代五時繼図 定二四〇七

不明 身延か

(2)三種教相 定二二五四

法華論列二十七名天親菩薩ノ論 一無量義經、二最勝修多羅、三

大方広經。四教菩薩法 五仏所護念 六一切諸仏秘密法

七一切諸仏之藏 八一切諸仏秘密処 九能生一切諸仏經十

一切諸仏(之)道場 十一一切諸仏所転法輪 十二一切

諸仏堅固舍利 十三一切諸仏大巧方便經 十四說一乘(經)

十五等一義住 十六妙法蓮華經 十七最勝法門也。当知。

諸名竝是法華之異名耳。

如来欲說法時至成就者為諸菩薩說大乘經故此大乘修多羅有

十七種名顯示甚深功德應知(何等十七云何顯示)。一名無

量義經者成就字義故以此法門說彼甚深(法)妙境界法

故彼甚深法妙境界者諸仏如来最勝境界故二名最勝修多羅者

於三藏中勝妙藏妙勝(此法門中)(善)成就故三名大

方広(經)者無量大乘門(中)(善成就故)随(順)衆生

根住持成就故四名教菩薩法者(以)為教化根熟菩薩隨順

法器善成就故五名仏所護念者(以)依仏如如

来有此法故六名一切諸仏秘密法者此法甚深(唯)如如

知故七名一切(諸)仏(之)藏者如来功德三昧之藏在此經

故八名一切諸仏(秘)密処者以根未熟衆生(等)非(受)

法器不(授)與故九名能生一切諸仏(經)者能此法門能成

(諸)仏(大)菩提故十名一切諸仏(之)道場者聞

此法門能成（諸仏）阿耨多羅三藐三菩提非余修多羅故十一  
 名一切諸仏所轉法輪者（以）此法門能破一切諸障（礙）故  
 十二名一切諸仏堅固舍利者謂如來真実法身於此修多羅不  
 （敗）壞故十三名一切諸仏大巧方便經者依此法門成大菩提  
 已為衆生説天声聞辟支仏等（諸善）法故十四名説一乘經  
 者以此法門顯示如來阿耨多羅三藐三菩提究竟之体（彼）二  
 乘（道）非究竟故十五名第一義住者（以）此法門是諸仏如  
 來法身究竟住処故十六名妙法蓮華（經）者有二種義何等二  
 種一者出水義（以）不可尽出離小乘泥濁水故又復有義（如）  
 （彼）蓮華出於泥水喻諸声聞（得）入如來大衆中坐如諸菩  
 薩坐蓮華上聞説如來無上智慧清淨境界（得）証如來（深）  
 密藏故二華開（義）（以）衆（生）於大乘中（其）心怯弱  
 不能生信（是）故開示（諸仏）如來淨妙法身令生信心故十  
 七名（最上）法門者撰成就者撰取無量名句字身（有）頻婆  
 羅阿闍婆等〔舒盧迦 偈〕故此十七句法門是總余句是別如經  
 為諸菩薩説大乘經名無量義如是等故

右の○印は菩提留支記に見辺字であり、第十一の一切諸  
 仏道場は勒那摩提訳で菩提留支訳には（之）の字がある。  
 また第十四、説一乘は両訳ともに説一乘経となつてゐるも  
 のである。

(3) 当体義鈔 定七六三  
 所謂法華論云 妙法蓮華□者有二種義。□□□  
 一者出水

義乃至出泥水論声聞□入如來大衆中坐如諸菩薩坐蓮華上聞  
 説如來無上智慧清淨境界□証如來□密藏故。二華開者諸衆生  
 於大乘中其心怯弱不能生信。□故開示□□如來淨妙法身令生  
 信心故文。

十六名妙法蓮華（經）者有二種一者出水義  
 （以）不可尽出離小乘泥濁水故（又）復有義（如彼）蓮華  
 出（於）泥水喻諸声聞（得）入如來大衆中坐如諸菩薩坐蓮  
 華上聞説（如來）無上智慧清淨境界（得）証如來（深）密  
 藏故二華開□義以 諸衆生□於大乘中（其）心怯弱不能生  
 信（是）故開示（証仏）如來淨妙法身令生信心故  
 遺文中の□右の○印は菩提留支訳にある字、原文の（）  
 は同訳にある字、●は菩提留支、勒那摩提両訳とも異なる所  
 である。

(4) 一代五時經圖 定二四二一

天親菩薩法華諸云 一住三藏名為小乘再往三教名為小乘

文

(5) 注法華經における法華論の引用

第一卷 第二四葉

天親菩薩深得經意是故法華論用五義釈告○飢食者何執前  
 定姓

一一四一

法花論云勤那乃至童子乃至已成仏道者謂發菩提心行菩薩行者者取作善根○之取能得文

同論云留支乃至童子○能語菩提○如上之取能得乃至仏頭等皆亦如是

一—四—裏—四—○

法花論云

如經舍利弗十方世界中尚無二乘何況有三如是等故謂無二乘取得涅槃唯依如來証大菩提究竟滿足

一切智惠名大涅槃非諸声聞辟支仏等有涅槃法唯一仏乘故

一—四—二

法花論云乃至童子戲聚沙為仏塔如是諸人等皆以成仏道者謂發菩提心行菩薩行者所作善根能証菩提非凡決定声聞本來未發菩提心者之所能得故如是乃至小低頭等皆亦如是文

第二—一—五

法花論云第三請者 示現今現在仏教化衆生如經今此会中如我等比乃至長夜安穩多取遠益故文

三—一—

法花論十無上。一者種子無上故說雨譬喻○二者行無上故說大通智勝○三者示現增上力無上故說商主譬四者令解無上故說繫宝珠譬喻五者示現清淨国土無上故示現多宝如來塔六者示現說無上故說譬中明珠譬喻七者示現教化衆生無上故地中涌出無量菩薩八者示現成大菩提無上故示現三種仏菩提○九者示現涅槃無上故說醫師譬喻十者示現勝妙力無上故有余

殘修多羅說

三—四—○

法花論云一者損驚怖謂小乘衆生如所聞声取以為真謗無大

乘

六—二—二頁裏

法花論云報仏如來真實淨土第一義諦之取撰故